第７回入間市指定管理者候補選定委員会会議録

１　**日　時**　令和４年１０月３日（月）９時３０分～１５時４０分

２　**場　所**　入間市役所　Ｂ棟　５階　第３委員会室

３　**出席者**　委員長　濱川敦

委　員　岩田正博、浅見泰志、齋藤忠士、高梨雅樹、小林由利、関田惠一

所管課　青少年課長　中林健、主幹　椿潤

事務局　企画部次長　栗原康友、デジタル行政推進課長　糟谷寿孝、

主幹　齊藤謙治、副主幹　齋藤謙次郎

４　**欠席者**　なし

５　**対象施設**　入間市児童センター

６　**議　事**

議　題

⑴ 応募者によるプレゼンテーション

プレゼンに先立ち事務局から、次の説明を行った。

応募法人の資格要件のうち暴力団関係者の有無について、事務局において県警に照会したところ、応募のあった法人について、「該当は無い」との回答を得ている。

プレゼンについて、１法人あたり５０分とする。時間配分は、プレゼン２５分、質疑応答２５分とする。仮にプレゼンが２０分で終了した場合には、質疑応答を５分増やし、３０分とする。質疑応答が早く終了した場合、５０分に達していなくてもその時点で終了とする。

採点等については、５～１点の５段階で採点を行い、審査票は、１０月７日までにデジタル行政推進課へ提出願いたい。

また、資料７－１として応募法人別提案概要を作成した。この資料は、各応募法人の提案内容について、各項目の比較ができるように、各社から提出された事業計画書概要をもとに事務局が作成したものである。各社からの応募資料とともに審査・採点にあたっての補足資料としていただきたい。

委　員　：　４社の比較資料は、応募者からの提案内容をそのまま貼り付けたということでよいか。一部抜粋とかではないか。

事務局　：　応募者には事業計画書の概要を作成いただいているが、その内容を貼り付けたものである。概要では図や画像を入れないようお願いしてあるが、図や画像があったものについて、それらを削除している。

①Ｂ社

応募書類を基に入間市児童センターに関する提案内容の説明の後、以下の質疑応答があった。

委　員　：　皆さんの胸に児童虐待防止の象徴であるオレンジリボンをつけていることが強く印象に残った。児童虐待は年々増加しており、我々職員もそうであるが、地域だったり関係機関であったり、気づきというのが重要になってくると思う。児童センターの指定管理業務に携わっていくことになった時、センター内で児童虐待を発見したり、気になる子どもに気づいたりした場合の具体的な対処方法をお聞かせいただきたい。

応募者　：　子どもの日々の様子を伺わせていただき、虐待やその疑いがある場合には、学校や子育て支援センター、青少年課等の関係機関に連絡し、可能な限り広い範囲での情報収集に努める。その中で虐待が疑われる場合には、どのような形で進めていくかを学校等関係機関と一緒になり、児童センターとしてできること、私たちがサポートできることを一番に考え対応していく。

　我々はこの問題を解決する機関ではないので、いかにそれを見つけて関係機関に報告や案内をするか、あるいは通報するかというのが使命であると考える。

委　員　：　入間市の児童センターの課題をよく理解していると感じた。一つ目として、児童センターをよくご覧になっていただいたかと思うが、立地条件というのは色々な面に影響してくると思う。入間市児童センターの立地条件をみたときに、その強みや弱みをどのように把握され、それをどう活かそうとしているのか。二つ目として、課題の一つである中高生をどう取り込んでいくのか、具体的な施策や事業について教えていただきたい。

応募者　：　立地の弱みに繋がるかどうかはわからないが、距離の面で児童センターを地理的に利用いただけない家庭があると考える。大きな児童センターが一つあるということは素晴らしいことだが、市内の隅々まで児童センターを使えるご家庭がいるかというと、そうではないのではというところが弱みかと思っている。その解決策としては、出張児童館をやっていかなければいけないと考えている。二つ目の質問である中高生の利用促進については、どこの地域でも課題となっている。ここはやはり中高生が利用しやすい時間に開館していることが基本になると思っており、開館時間の延長を強く提案する。弊社が運営する他の児童館で行っている「中高生タイム」という中高生の年代しか利用できない時間を、開館時間の延長という形で提案させていただき、中高生にとって居心地の良い場所を作ろうと考えている。一般的に学校に通っている中高生は部活動や習い事等で児童館が運営している時間帯に来るということは難しい。私が勤務する児童館においても、中高生タイムをもっと増やしてほしい、もっと児童館に来たいといった中高生からの声もある。毎日実施することは難しい部分でもあるが、中高生の生の声を活かしながら関係性を作り、様々な事業を実施したいと考えている。特にプレゼンテーションでは出さなかったが、こども会議を中高生会議に発展させ、中学生自らが足を運び、高校生と一緒になって、自分たちでできる活動を、自分たちで考

え意見を出し合って決めていくといったことも考えている。過去にも、小学生によるこども会議から、館内でおやつを食べられるようにするための提案書を所管課に出し認めてもらったり、中高生からの要望としてスマートフォンの館内での使用を提案し認めてもらったりした実績もある。こういった形で中高生等の意見を反映させていきたいと思っている。

委　員　：　立地条件の弱みをよくつかんでいる。そこがポイントと思っている。

委　員　：　地域住民や学校等との連携について提案いただいたが、実際に児童センターとそういった団体との連携はどんなことを考えているのか。近隣には大学等もあるが、大学等との連携についても考えがあれば教えていただきたい。

応募者　：　現在運営されている会社の人脈等はすべて引き継がせていただく。自治会や民生委員、あとは所管課の皆様方との関係性を改めて作らせていただくが、一番身近である保護者との連携を第一に考えている。子育ての知識や経験のある保護者の方に、新米ママの子育てのサポートをしていただくとか、子育てボランティアとして活躍していただくようなことも考えている。また、子育てしているお母さんたちの中から活動したいという声があがれば、自主的に活動できるよう職員がサポートしていきたいと考えている。

応募者　：　補足として、弊社にも新卒の専門員として近隣の大学である[redacted]大学の卒業生がたくさんおり、新卒の方の活躍の機会やその繋がりを活かしていきたい。児童館の中で学生たちに関わっていただくと、大きな効果があると実感している。[redacted]や[redacted]地区で運営している児童館には、[redacted]大学に限らず、保育士養成校である[redacted]学園や[redacted]学園の学生が夏休みのアルバイトで活躍いただいたり、インターンシップを受け入れたりするなど交流が盛んである。その学生が将来的に入社するという実績を積み重ねているが、学校と連携することで、我々の成長にとっても有益であり、積極的に交わっていきたいと考えている。また、[redacted]市では、[redacted]大学、[redacted]との産官学連携により、フードロスの取組や食糧危機についてのワークショップを開催するなど有益な活動を行っている。そういったところも目指していきたいと考えている。

委　員　：　これからの５年間で、児童センターのここは伸ばしていきたい、こういった形で運営していきたいという数値的な目標があれば教えていただきたい。

応募者　：　具体的な数字はお答えできないが、直営から指定管理になる時や指定管理を引き継ぐ時のいずれも気にするのは、やはり来館者数である。小学生は当然メインで利用いただくが、午前中の乳幼児の利用の促進であるとか、夕方からの中高生の利用が促進されるかといったところが児童館にとっての肝だと思っている。劇的に利用者数を伸ばした経験もあるため、こういった部分に注力してまいりたい。

委　員　：　今回のプレゼンテーションでは、プラネタリウムに関することがあまり触れられていなかったと感じる。基本的には前からの踏襲みたいな感じか、それとも新

たな考えがあるのかお聞かせいただきたい。

応募者　：　我々も[redacted]市の施設でプラネタリウムの管理をやっているが、そこでの１カ所しか実績はないため、大きな知識やノウハウを持っているというわけではないが、その経験を踏まえ、まずは現在の活動を継承し、その後プラスになるような施策をしたいと思っている。

委　員　：　児童館の運営を他でも多く行っているとのことであるが、コロナが発生した当初は休館や閉館といったこともあったかと思う。その時の職員への対応として、例えば解雇があったのか、自宅待機でテレワークといったことをしたのか等、どういった対応をとったのか、お聞かせいただきたい。

応募者　：　コロナが発生した時に、児童館が閉館となったところが多かった。首都圏ではほぼ閉館となった。その時に職員を自宅待機にするというのはもったいない部分もあったため、当社が運営する学童クラブへ研修を含めて出向させた。他にも自宅で制作物を作るといった在宅ワークも一部行っていた。制作物については、成果物を確認しないと労働という形では認められないため、そこはしっかり確認をしたうえで支払った。

委　員　：　人材育成についての説明において、他社には真似できない現場力の向上というのがあった。具体的にどんな事例があるのかを教えていただきたい。

応募者　：　現場力の向上の具体的な内容として、私は昨年まで児童館のスタッフとして働いており、　工作のイベントで子どもが主体になるにはどうしたらよいかということをレポートとして挙げた。工作のイベントではハサミやカッターを使用することから、職員が中心になるイベントであったが、児童館としたら子どもが主体として、子どもが何をしたいのかというのを大切にしたいと考え、工作先生というバッチを子ども達につけてもらうことを提案した。これは、最初は職員が子ども達に教えるのだが、そのあと高学年の子の中で他の子に教えたいという子がいたら、先生の代わりになりバッチをつけてもらうというものである。

応募者　：　他の例としては、児童館の消毒作業において、多数の職員がいる中で誰がどこの消毒をしたのかがわからなくなることがあった。そこで、おもちゃや施設の写真を撮り提示し、それをクリアファイルに入れることで、何時に消毒したのかを確認できるようにした。こういったちょっとした気づきや工夫で現場力の向上を図ってきた。学童の例になるが、子ども達のアレルギー対応についても、子ども達にアレルギー表示はどこを見ればわかるのかといったことを少しずつ教えていき、自分で気づける仕組みづくりを行っているが、こういったことも現場力の一つだと思っている。

委　員　：　事業計画における賃金について、「児童の遊びを指導する者」の非常勤職員の賃金の記載がないので教えていただきたい。

応募者　：「地域子育て支援拠点事業先任者」と同様に時給１，０３０円で積算をしている。

委　員 ： プレーカーに特化した提案があれば教えていただきたい。

応募者 ： 現時点で行っていることを引き継ぐということと、今後やっていく中で様々気づいたことがあれば、新たに提案していきたい。

委　員 ： 御社が指定管理者になった場合、前の事業者から引継ぎとなり、原則継続雇用するとのことだが、引継ぎにあたっての方策の一つだと思うが、具体的に引継ぎにあたってはどういうことをするのか。

応募者 ： ご挨拶の後、月１回以上の引継ぎの会議を実施し、引継ぎを進めていく。可能であれば３月から機能させていただき引き継いでいきたい。また、引継ぎは「人・モノ・コト」と３分野に分けており、まずは「人」として、現在お勤めの方々を多く迎え入れたい。これは育成の継続という点からも重要と考える。次に「モノ」として、大きな施設を管理運営することから施設や備品の引継ぎが重要となる。最後に「コト」というのは行政である。現状児童館は伝統的な行事や地域との繋がりがあるため、それらの引継ぎがある。

なお、人の異動について、できる限り多くの方を前事業者から引き継ぎたいと考えているが、事業者の考えもあることから、全ての人員を引き継げない場合には、当社の[redacted]や[redacted]地区で運営している施設からの異動や新規採用により対応してまいりたい。

委　員 ： 入間市は今年５月にＳＤＧｓ未来都市の選定を受けた。市としても将来に向けてあらゆる施策でＳＤＧｓを念頭に置きながら進めていく。自主事業についても提案いただいたが、そういう観点で取り組もうとしているものや、市の方向性に合わせた入間市ならではの自主事業があれば、意気込みとともに聞かせていただきたい。

応募者 ： 他の運営する児童館でもやっているが、子ども達にＳＤＧｓを知ってもらうために、どういう目標があるのかなどを壁に貼り付けて、自分たちでは何ができるだろうというのを考えてもらうところからスタートしたいと考えている。そうやって子ども達の意識を高めて行事やイベントにつなげていきたい。

事務局 ：時間となったので質疑応答は以上とする。

②Ｃ社

応募書類を基に入間市児童センターに関する提案内容の説明の後、以下の質疑応答があった。

委　員 ： 御社でなければできないサービスがあれば教えていただきたい。

応募者 ： やりたいこととして、まずは卓球教室がある。卓球は卓球台があれば児童も父兄も楽しめるスポーツであり、世界からも日本の卓球が注目されている。市内や

県内の卓球チームや大学等の力を借りて、卓球教室を週１回開催したいと考えている。また、チアリーディングにも興味を持っており、児童館でチーム作りができればと考えている。そして将来この中からオリンピック選手が生まれたら最高と考える。

委　員 ： 収支計算書について、積算の内訳を説明いただきたい。

応募者 ： 支出について、人件費については給料、手当、福利厚生費と分けて計上させていただいた。事務費や管理運営費、事業費や委託料、精算項目である水道光熱費や修繕費の数字は仕様書に書かれていることを遵守した金額としている。収入としては指定管理料として約６，５００万円、自主事業収入については、おそらくこのぐらいではないかという数字を入れている。雑収入等々で収入は６，５８９万１千円とした。支出については人件費が約３，３００万円、事務費は５万円程度、管理運営費については建物等々の工事も見越して４００万円、事業費もボランティアの活用等も考えているが難しいこともあるので４００万円を計上した。委託費は専門業者に委託する分として、例えば空調や電気機械等々の点検の委託費等を計上している。その他として、事業を運営するボランティアに対する諸経費諸々を計上し、差し引き７６７万円が弊社の利益としてみている。

委　員 ： 緊急時の対応として「安否確認ＫｉｎＱ. jp システム」の提案があるが、この分の予算は計上されているのか。

応募者 ： すでに弊社の中でやっていることなので、費用としては計上していない。

委　員 ： プレーカーについて予算の範囲内で増やしていきたいとあるが、その財源確保はどうなっているか。

応募者 ： 利益の中で浮かせるところがあれば、そこから確保していきたい。又は指定管理料の中からある程度もってくればあと１台くらいはできるかもしれない。

委　員 ： 増やすということでよいか。

応募者 ： 期間の途中で予算の確保ができれば取り組みたいということである。

委　員 ： 取り組みたい事業として、チアリーディングや卓球について説明いただいたが、自主事業については提案書によれば、現在の活動を全て継承するとある。もう少し日常的な児童センターでの取り組みや事業展開についてお聞かせいただきたい。

応募者 ： ビル管理の実績はたくさんあるが、指定管理の実績が我々にはない。児童館にどのような児童が集まるか、父兄が集まるかというのは仕様書の範囲内でしかわからない。全ての事業を継承することで、まずは把握していかなければならない。また、日々どんなことをやっていくかというと、児童が楽しく遊べる場所を作らなければいけない。現地を見ると、遊ぶ場所や多彩なおもちゃがあるが、キレイなものを使いたいと考える。特に感染症対策は本当にやっていかないといけないと考える。そのため建物全体を無菌状態にはできないが、オゾンや空気清浄機を

入れるといったことを提案していきたい。

委　員　：　職員の研修で実績と今後の計画が示されていたが、その研修内容がよくわからなかった。今後児童と過ごすということで、例えば子どもの人権に関する問題であったりハラスメントの問題であったり色々出てくるかと思うが、そういった項目は計画に盛り込んでいるのか。

応募者　：　基本的には新入社員の導入教育、それから業務運営マニュアルを中心にした教育、マナー教育、新人フォローアップ等々を行っており、その中の社内カリキュラムの中にすべて入っている。ただ、児童に対する対応や研修はやったことがない。そのため、会社全体で入間市の児童館の事業を通じて勉強していかなければならないと思っている。

委　員　：　もう１点は質問というよりお願いになる。就業規則を見ると最終の更新が平成２９年となっているが、５年経過しており、その間に法改正がされていることから適宜アップデートをしていただければと思う。

応募者　：就業規則に附則があるのだが、今回時間がなくて添付することができなかった。その中で法律に遵守した形になっていると思う。アドバイスありがとうございます。

委　員　：　収支計画書では委託料が１，０００万円で計上してあるが、事業計画書の収支計画では１，５００万円と記載がある。どちらが正しいのか。

応募者　：　間違いであり１，０００万円である。その分安くなる可能性がある。

委　員　：　会社のパンフレット等も見させていただくと、これまで建物管理をメインに仕事されているようであり、今回はまさにその強みを活かしたご提案だったのかと思う。児童センターの指定管理となると、新たに児童の日常生活だとか活動の場、遊び場の提供といったソフトの業務がメインになってくると思う。今回会社として新しい分野にチャレンジされたのかなとお見受けするが、児童センターの指定管理に手を挙げた一番の動機は何か、お聞かせいただきたい。

応募者　：　おっしゃるとおり、ビル管理を中心に４５年やってきている。今後はビル管理だけでやっていくのは非常に厳しいと考え、指定管理に手を挙げさせていただいた。我々の弱い部分として、指定管理の実績がない。実績を作るために体育館の運営等にも手を挙げたがダメだった。今回児童センターの指定管理を全て当社でやるというより、職員の皆さんと一緒になって勉強しながらやらせていただきたいと考えている。当社ではビル管理を中心に新たな事業として避雷針事業に取り組んでいる。最近は様々な官公庁とタッグを組んで点検や工事をやらせてもらっており、事業として大きくなってきた。指定管理についても、是非勉強させていただき、当社のノウハウの一つとしてやりたい事業である。

事務局　：他になければ質疑応答は以上とする。

③株式会社コマーム

応募書類を基に入間市児童センターに関する提案内容の説明の後、以下の質疑応答があった。

委　員　：　指定管理を受託してからのこの５年間を総括して、児童センターの運営における課題と、今後５年間受託した場合にそれにどう対応していくのか。また、入間市では全国初となるヤングケアラー支援条例を制定し、市の責務としてヤングケアラーを支援していくことを位置付けた。御社が受託した場合には、児童福祉に携わる施設としてどのような形で携わっていくのか。説明にもあったが中高生の居場所やレスパイトできる施設として具体的な考えがあればお聞かせいただきたい。

応募者　：　平成３０年度から指定管理者として運営させていただいている。市内唯一の児童センターということ、大型で大規模な児童センターということで当初から利用人数を意識していたところもあるが、利用人数が伸び悩んだ時期もあり、そのあたりが課題と認識している。やはりコロナ禍で今までのように自由に来て、自由に遊んでいいよということをなかなか言いづらい環境の中で、どのようにしたら子ども達のための居場所を作れるだろうかというのを、スタッフを中心に考えており、徐々に感染拡大防止の観点にも慣れてきたこともあり、様々な事業が再開できるようになってきている。天体観測会のように外で行う事業はこれまでも実施してきたが、今回プレーカーを用意いただいたことで、今まで以上に積極的に新たな目的をもって事業展開していくことが、今後５年間の目標と考えている。広い入間市の中で、遊びが行き届かない地域もあると思うが、そういったところに積極的に目を向けながら、入間市内全域が丸ごと児童センターにいるかのような仕掛けを今後５年間で行っていきたい。

　また、ヤングケアラーへの課題として、来年度子ども家庭庁が新設されるということもあり、我々も注目しているところである。本人自信がケアラーということに気づいていないのが大半を占めているという状況で、私たちとしても何ができることはないかと常に考えており、利用者の声、小さな声でも拾うことの大切さはもちろんのこと、様々な機関との情報交換をしながら、憩いの場の提供含め対応していきたい。

委　員　：　学童保育と連携しているとのことであったが、それ以外の例えば保育所や博物館、健康福祉センターといった施設との事業連携を、今後の５年間でやってみたいというのがあれば聞かせていただきたい。

応募者　：　様々な施設との連携として、各地に出向いての連携というのを考えている。学校や公民館といった施設にとどまらず、自治会の祭り等にスタッフを派遣して手伝うことで自治会との繋がりをもっていきたいと考えている。また、市内の企業

やＮＰＯの強みを活かした事業を、コラボしながら事業連携を図っていきたいと思っている。また、他市の事例になるが、新設された保育所と児童センターで施設間交流を実施した。オンラインではあったが入園式の中で保育所の子ども達に向けてダンスを披露した。こういった施設を超えた取り組みを拡げていきたいと考えている。

委　員　：　事業計画書に、プラネタリウム室をｅスポーツの会場にとの提案がある。見込みはあるのか、営利としてどのくらいを見込んでいるのか。また、収支計画で人件費は５年間据え置きの提案だが、人件費の増加もあると思うがそのあたりの考えをお聞かせいただきたい。

応募者　：　プラネタリウムについては、これまでもコスプレの撮影会や、昨年はミュージックビデオの撮影など本来の活用以外も展開してきた。そういった発想でｅスポーツを提案させていただいたのだが、高校生が部活動でやっているところもあり、今後、市が Wi-Fi を施設に導入していただけるという話もあるため、プラネタリウム室の大型スクリーンを使い、中高生の利用増という観点からも提案させていただいた。将来的には全国的な大会もできればという理想を持っている。

　人件費については、継続するスタッフについては昇給の制度もあり確実に上がっていく要素ではある。計画書の中では５年間の中で均したうえで提案させていただいている。

委　員　：　中高生のための開館時間の延長については、現在実施しているのか。

応募者　：　中高生のための目的としては今はやっていない。来やすい曜日や時間等を設定していきたいと考えている。

委　員　：　ヤングケアラー支援について、児童センターの関わりについてもう少し具体的に教えていただきたい。

応募者　：　児童センターの役割として、早期発見が大事であると考える。本人に自覚がない以上、こちらが見たり聞いたりすることで気づいてあげるということが大事だと思っている。また、必要に応じて関係機関と繋がりをもつことが重要と考える。児童センターは児童福祉施設であり、学校とは違い、来なければいけない施設ではない。なので、なるべくハードルが低くて来やすい施設であろうとまずは思っている。そして、児童センターに来たときにスタッフが話しかけやすい環境にして、早期発見に繋げていきたいと考えている。教育委員会と連携して学校に行けない中学生の居場所とした例もあるが、何より子ども達にとって居やすい場所を作りたいと思っている。

委　員　：　次の５年間の児童センターの姿、一番売り出していきたいところがあれば教えていただきたい。

応募者　：　これまでも取り組んできた乳幼児とその親御さんへの取組として、地域子育て支援拠点事業を導入していただき、事業展開を図れたことがこれまでの５年間の

大きな財産になっている。これからの５年間は２つの大きなテーマを掲げていきたい。１つ目は外に出向くこと。これまでの５年間は地に足をつけて、児童センターを中心に乳幼児や小学生との関係づくりをまずはやってきた。これからは、遠くに住んでいてなかなか来られないといったところに、こちらから出向いていきたい。２つ目は中高生の居場所づくりとして、使いづらい中高生に使ってもらうこと。この二つを中心に行っていきたいと思う。

委　員：コロナが流行りはじめたことは、全館休館といったこともあったと思うが、その時に従業員にどんな対応をされていたのか。解雇等があったのか、あるいは休業手当等払って休業していたのか、又は自宅待機をさせてテレワーク等をさせていたのか。

応募者：休館中の職員配置については極力最低限の職員人数で対応した。休みになる方に対しては休業手当の補償を提示させていただいた。在宅勤務についても必要に応じてできる体制を、少し時間がかかってしまったところもあるが、整備させていただいた。

委　員：研修のカリキュラムが非常に豊富でしっかりやっていると感じたが、オンラインや動画配信といったいつでもどこでも受講できるといった工夫は何かあるか。

応募者：研修の９割がオンラインで実施している。これまでは川口市まで集まって実施していたが、今は研修や会議はオンラインで実施している。動画配信は、いつでも見ることができる体制、何か困ったことがあればそれを見れば大丈夫といったことのために、現在着手しているところである。

委　員：人員体制のシフトをみると、通常体制で７～８名とのことであり、他社の提案と比較すると少なく感じる。残業が多かったり、年次有給休暇が取りにくかったりといった支障はないか。

応募者：実状を申し上げれば、７～８名の配置で運営は十分賄える。１８時以降の残業もなく、年次有給休暇も消化できている状況である。

委　員：質問ではなくお願いになるが、規程等で古いものがあった。今年改正が結構あるため、改正していないようであれば改正いただきたい。

委　員：児童センターだけの収支の状況について確認したい。コロナ禍でこの２、３年は大変だったのではと思うが、仮に赤字の部分があるとか、苦労されたところがあればお聞かせいただきたい。また、収支計画書の管理運営費として本部運営管理費とあるが、これはどういった経費なのかをお聞かせいただきたい。

応募者：児童センターの収支において赤字になっているということはなく、光熱水費の上昇等もあるが、あらかじめ確保するなど、問題なく運営させていただいている。本部管理運営費については、本社事務経費として、施設運営にかかる事業部マネージャーや経理等総務担当の人件費等も含まれている。また、採用など間接的に係る経費が入ってくる。

委　員 :学童保育や児童センター等の類似施設を県内県外と色々展開されているとのことだが、取り組みの横展開であるとか、類似施設間の情報共有等実施していることはあるか。

応募者 ： 月に一度すべての施設のチーフ会議を開催している。全体のチーフ会議後に細かなセクションごとに分かれ、良い事例はもちろん、悪い事例も含めて共有し、良いことは横に広げるようにしている。また、悪い事例については皆で解決策を考えるといった時間を設けている。

委　員 ： 所長などの人事異動はあるのか。

応募者 ： 基本的に年度途中の人事異動は行わないようにして、年度替わりでしっかり面談したうえで双方納得のうえで見直すといった形にしている。

事務局 :時間となったので質疑応答は以上とする。

④Ａ社

応募書類を基に入間市児童センターに関する提案内容の説明の後、以下の質疑応答があった。

委　員 ： 事業について、人気の事業については継続して実施し、新たな事業も詰めていくとの説明であったが、現在の児童センターの運営状況をみた上で、どのような課題があると考えるか。また、その対応についてどのように考えるか。ヤングケアラーについて、市ではヤングケアラー支援条例を制定し、市の責務としてヤングケアラーを早期に発見し適切な支援につなげていくことを打ち出している。児童センターが中高生の居場所やレスパイトできる施設として具体的にどのような支援をすべきと捉えているか。

応募者 ： 様々な事業を実施されていることをホームページ等で確認した。実際に事業に参加したわけではないが、中高生の参加人数がなかなか増えないというのは、当社が運営する施設でもそうだが、アイクスにもあると思う。幼児や小学生については、コロナ禍の時期と比べ全国的にも増えてきているため、中高生が来やすい時間帯に中高生が優先して使用できる場所を、他の利用者にも理解いただいたうえで、部活のない日に勉強のために集まったり、職員と話すために来てもらったりし、中高生の利用を増やす取り組みを行っていきたい。

　ヤングケアラーについては、他の施設での事例として、やたら携帯を気にしていて携帯を見て慌てて帰った生徒がいたことに職員が気づいた、ということがあった。信頼関係を築いた職員が話を聞くと家に車いすの父親がいて、そのフォローをしなければならず、学校に行けないということがわかった。こういった気づきの事例を全ての施設で共有し、どういった形でヤングケアラーをフォローしていくか等、各施設からの意見を出し合い、それも共有するといったことを継続し

て実施してまいりたい。

委　員 ： 既存事業の継承とあわせて、「Ａ社」の特色を活かした新規事業との提案であるが、この特色を活かした提案について詳しくお聞かせいただきたい。

応募者 ： 本社から定期的にツールが届く。例えば、昨年のクリスマスでは、全身を使って遊べる大型のジェンガが届けられ、ハロウィンでは、ガチャガチャの中に宝物を入れて遊ぶゲームやガチャガチャ自体を使って遊ぶといったことを年間通じて行っている。また、zoom を活用して、[redacted]と[redacted]の施設が一緒になってモルック対決を行うといったことも実施した。

委　員 ： 当市で提示した上限額から５年間で約１６００万円低く抑えるとの提案である。事業収入はプラネタリウムだけのようであるが、様々な事業を実施する中で、利用者から参加費といったものをとってさらに事業を充実させていくという考え方があれば、教えていただきたい。

応募者 ： 実施自主事業収入としてはプラネタリウムしかみていない。ただし、工作活動といったものになると、材料費等を参加者に負担いただくといったこともあるが、そういった事業を計画する場合には、市と金額等について相談しながら実施してまいりたい。

委　員 ： プラネタリウムの活用についてどういった考えがあるか教えていただきたい。また、児童センター運営の基本方針として、「地域で見守る遊び・学び・交流ができる子どもの居場所づくり」との提案であるが、この実現に向け、一番の目玉は、なにかを説明いただきたい。

応募者 ： プラネタリウムについて、個人的に家族で利用した場合と幼稚園の子どもの引率として利用した場合で全く違うプログラムで、見せ方が全然違うということを身をもって体験した。新たな目線で、利用者の声も聞きながら、それぞれの年代にあったプログラムの企画ができればと考えている。

一番は地域という部分と考えるが、事前に地域の人とつながることは難しい。これまでの事業展開では、地域の公民館で実施されている事業等に参加して、児童センターの事業で講師をやってもらうようにアプロ―チをかけていくといったこともあった。そういった私たち自身が足で地域との繋がりをつくっていくことなどがポイントになる。

委　員 ： 感想として、提案に苦情やクレームへの対応を位置付けていることはすごいと感じた。

委　員 ： 他の児童施設を運営しているとのことだが、コロナ禍で休館といったこともあったと思う。その時に従業員に対してどういった対応をしたのか。解雇をしたであったり、あるいは給与を支払って自宅待機にさせたり、テレワークで別の仕事をさせたり、あるいは研修を実施したりといったことについて教えていただきたい。

応募者　：　解雇はない。自宅でできる仕事として、小さな子どもが来る事業がたくさんあったため、子ども達がコロナ禍後に来た時に楽しく感じてもらえるよう事業の準備をしていただいた施設もある。自治体によっては開館したところもあったが、その場合には最小限の人数で出勤し、電話相談を受けたり、施設の入口に手作りに遊べるキットを用意して子ども達が持って帰れるといったことを行ったり、子ども達とお手紙交換できるよう指定のポストを置いた施設もあった。他には自宅にいながら児童館を体験できるようダンスや手遊びなどの動画を作成した。

委　員　：　職員配置で、プラネタリウム投影技術者は常勤とのことである。１日中投影しているわけではないと思うが、投影時間以外は何か別の業務をしてもらうとして常勤としているのか。

応募者　：　何かあったときにすぐ対応できるための研修に行きながら、事業がないときは他の業務を手伝ってもらうことを想定している。

委　員　：　収支計画書で人件費が他の応募者と比較し低いと感じる。他の施設も多く運営しているということで、他施設とのバランスからこの金額となっているということか。

応募者　：　他社の状況はわからないが、年間の開所日数を算出し、平日や土日で配置人数を変えながら人件費を算出している。毎年１０２％弱の処遇改善も考えており、運営できるシフトを考え算出した。

委　員　：　様々な場所で様々な施設を運営しているスケールメリットを生かし、独自の取組が生まれてきていると理解した。入間市が置かれている立地状況や社会的環境といったことを踏まえ、入間市ならではの取組や提案があればお聞かせいただきたい。

応募者　：　入間市はお茶が名産であり、地元の企業等とコラボレートして子ども達に伝えていきたい。また市内の公園を活用して、入間市の歴史や祭りのことなど、地元をよく知ってもらうことを児童センターの活動を通じて伝えていきたい。

事務局　：時間となったので質疑応答は以上とする。

⑵ 委員からの講評

委員長　：応募資料および本日のプレゼンテーションを受け、各委員から意見、感想があればお願いしたい。なお、あくまでも採点は各委員の自己判断が大前提となるが、専門的な見地から述べておきたいことや、相互確認しておいたほうがいいことなどがあれば述べていただきたい。

委　員　：「Ｂ社」について、女性活躍推進法に基づく「えるぼし」の３つ星認定など労働条件の向上に取り組んでいる企業と感じた。その他人事面でも問題ないという印象である。「Ｃ社」については、やはり経験がないということで研修もどういったことをやるのかわからなかったし、労働条件でも必要最低限との印象である。

コマームについて、人事面では特に可もなく不可もないという印象である。「A社」については、コロナ禍での対応として、時間をうまく活用しており、臨機応変に対応できる会社との印象である。

委　員：「B社」、コマーム、「A社」の３社については甲乙つけがたい。「B社」について、外国人市民の利用への取組はよく考えていると感じた。一方で、プラネタリウムや無線の活用について不十分であると感じた。コマームについては現指定管理者というのは強みであり、プラネタリウムの活用についても新たな取り組みをいろいろ考えていると感じた。本部運営管理費について質問した際、本部の人件費も含まれるといったことであったが、収支計画書を見ると、その他の間接経費として本部人件費との記載もある。この点についてもう少し聞きたかった。「A社」については、自主的な活動や新たな活動について全国展開しているだけあってよく考えられている。また、引き継ぎに関する具体的な説明があり、引き継いだとしてもスムーズに行えるのではないかと感じた。一方で、やはり人件費が少ないと感じた。特に所長と副所長の給料があまり変わらず、所長が大変なのではないかと感じた。

委　員：「B社」について一番すごいなと感じたのは、利用者の平等利用の確保に関する捉え方である。これは他の法人においてもお願いしたい部分であると感じた。コマームについてはやはりこれまでの実績があり、よくわかっているというのが大きいと感じた。「A社」については、展開規模が大きいということもあり、色々な部分でそつなくこなすという印象である。

委　員：「B社」、コマーム、「A社」の３社については、それぞれの特徴を活かした提案がされていた。「B社」については、他の委員からも意見があったが、外国人や障がい者の育成といったことへの基本的な考え方を示していただいた点は評価が高い。コマームについては、学童保育室の運営や現在の指定管理者でもあり安定した運営が望めると感じた。「A社」については、規模が大きいという印象と、わかりやすく説明いただいたという印象である。

委　員：私も他の委員と同様に３社が甲乙つけがたいという印象である。「B社」は、あまり新規性が感じられなかった。コマームについては、やはり５年間の実績があるということで課題の認識や新たな取り組みを考えており、次の目標として中高生の利用とアウトリーチということを明確にしており将来像も見えているという印象であった。地域との連携として企業との連携に取り組んでいる点も評価できる。「A社」については、規模が大きな企業ということもあり、色々なノウハウやアイデアを持っており、それを入間市の児童センターにうまく当てはめて提案してきているという印象である。特色を活かした新規事業について質問したが、児童センターの役割をよく考え、利用状況をとらえた提案であったと感じた。

委　員：「B社」については、これまで入間市ではないところで経験してきた実績を踏ま

えた提案であったと感じた。ただ、プラネタリウムやプレーカーといった提案については不足していると感じた。プレゼンテーションについては、資料の作りやメリハリのあるしゃべり方で一番聞きやすかった。「Ｃ社」の提案については、資料についてもプレゼンテーションについても、少し心配になるような内容であった。コマームについては、現在受託している強みをもう少し示してほしかった。また、課題と感じている中高生への支援については、もう少し具体策がほしかった。残念に感じているのは、資料が見づらく、プレゼンテーションを聞いていても、資料とどこがリンクしているのかがわからなかった。最後に「Ａ社」については、チャレンジャーという意味でこれから取ろうという姿勢があり、経費的な部分や資料の見せ方において、民間ということを一番ＰＲしていたように感じた。支社の運営といった部分でもしっかりしているという印象である。私も「Ｂ社」とコマーム、「Ａ社」の３社についてはいい勝負で甲乙つけがたい。

委　員　：「Ａ社」は、全国展開して相当な規模という点から、安定感という意味では一番心強く感じた。ノウハウや会社のバックアップ体制もしっかりしているとの印象であるが、全国展開している分、定型化しやすいのではないかとの不安もある。コマームについては、入間市の地域に溶け込んでおり、企業と連携など地域との繋がっている安心感がある。各社それぞれ同様の事業を他でもやっていることもあり、各社ノウハウはもっていると思うし、課題の認識やその対応もある意味似たようなところがあることから、どういった判断で点数に差をつければいいのかと、現段階では正直迷っているところがある。あらためて資料を細かく拝見し、採点していきたい。

委員長　：他に確認したい点等がなければ、委員からの講評は以上とする。

⑶ 青少年課からの意見・感想

委員長　：所管課としての意見、感想があればお願いしたい。

所管課　：入間市児童センターは、市内で唯一の児童福祉施設である。まずは、「入間市まち・ひと・しごと創生総合戦略」のテーマである「元気な子どもが育つまち」を念頭に、「児童センター基本方針」に掲げさせていただいた事業運営方針

（１）児童の健全育成・健康増進を図る。

（２）児童に対し、ルール・マナーを身につけられるよう支援する

（３）科学学習の機会を提供する

（４）ボランティア会等と協働し、ボランティアを育成する

（５）子育て及び子育て家庭を支援する

（６）児童が意見を述べる場を提供する

これらの事業運営方針を忠実に実現出来る事業者を希望する。また、行政サイドとの連携はもとより、創意と工夫を凝らした自主事業を開催することにより、児

童センターを更に活性化させ、来館者数の増加につなげ、これまで以上に児童の健全育成が図れる場として発展していくことを望んでいる。委員の皆様には、それぞれの事業者から提供された書類をよくご確認いただき、また、本日のプレゼンの内容からもご判断いただき、健全で適切な事業者を選出していただきたい。

７　その他

審査票の提出と次回の日程について

１０月７日（金）までに審査票をデジタル行政推進課に提出していただきたい。次回の第８回は１０月１３日（木）に開催する。

以上